

組織目標評価報告書（平成27年度）

部局名：

大学院自然科学研究科

部局長名：

田中 秀樹

| 目 標 | 目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組) |
|---|--|
| ①教育領域 | 自己評価 |
| ①-1 目標 | ①-1 |
| (1)学位審査基準および外部教育評価の検討を行う。 (2)留学生の受入派遣体制を充実する。 ・教育方法・内容について (3)専門分野を超えた異分野融合教育を推進する。 (4)英語による講義の開講数の増加を図る。 ・教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について (5)若手研究者キャリア支援センター等と連携し、学生に対するキャリア支援プログラムを活用して進路選択を支援する。 ・学生支援について (6)奨学金助成情報の収集と発信に努める。 (7)TA・RAの雇用機会を増進する。 (8)60分・クォーター制に対応した大学院授業充実の検討をする。 ・その他 (9)優秀学生への科長表彰を実施する。 | (1)各専攻・講座において定められた学位審査基準に基づき、研究内容と学位授与の条件のクリアについて、各専攻長を中心に専門的観点からより綿密な審査を行った。 (2)中国赴日本国留学生予備教育事業に中心的役割を果たし、また基礎学部と一体となった受け入れ派遣体制の構築を行っている。 (3)先進基礎科学特別コースなどのコースによる専門を超えた融合教育の実施に努めている。 (4)英語による開講科目の増加に努め、生命医用工学専攻をはじめ多くの専攻でその数は増加している。 (5)若手研究者キャリア支援センター等のが主催する会議講演会・セミナーについて情報を発信するとともに、連携による進路の多様化を図っている。 (6)特に留学生を対象とした奨学金については、情報の発信や部局内選考、また(2)に関連して、奨学生卒の確保に努めている。 (7)TAの雇用及び・RAの雇用に関しての選考に当たっては、雇用人数を可能な限り増やすような配慮を行った。 (8)60分・クォーター制に対応した大学院授業充実の検討を行った。 (9)優秀学生への科長表彰を、前期課程13名、後期課程47名の授与を決定している。 |
| ①-2 目標とする(重要視する)客観的指標 | ①-2 |
| (1)博士前期課程の各専攻における定員充足を目指す。 (2)博士後期課程の定員充足を目指す。 | (1)前期課程については、一部専攻では入学定員を充足できていないが、全体としての充足はなされている。(105.6%) (2)従来充足率の低い専攻で改善がみられたが、現在の平成27年度の充足率は73.9%であり、平成26年度の68.1%から向上している。 |
| ②研究領域 | 自己評価 |
| ②-1 目標 | ②-1 |
| ・研究水準及び研究成果等について (1)戦略的重点プロジェクト研究及び新分野の創成を目指す基礎および応用研究を推進する。 (2)現在世界的に高評価されている研究の継続的な発展を図る。 (3)研究成果(論文誌掲載やシンポジウム・研究集会の開催など)の公表を促進する。 (4)知的財産本部およびURAと連携した知財の獲得を推進する。 ・研究実施体制等の整備について (5)外部資金獲得のための専攻や講座の枠を超えた水準の高い研究プロジェクトの編成を促進する。 (6)複数の先進研究者による研究科内研究拠点体制を整備するとともに支援する。 (7)卓越する研究を実施する個人あるいはグループを支援する。 ・その他 (8)科学研究費の申請率および採択率の向上を目指す。 | (1)基礎科学として異分野基礎科学研究所を設立し、また応用として生命医用工学専攻の設置を行い、さらには医工連携大学院設置に協力するなど、関連研究の推進を図った。 (2)光合成研究センターに支援を行い、HPなどの充実を図った。 (3)研究成果の発表を奨励して、一部については支援を行い、またNature, Scienceなど高IF雑誌に掲載された。 (4)企業や産総研との包括協定による研究推進に協力した。 (5)触媒や計算科学のグループ化などの編成に協力、また中心的に企画した。 (6),(7)研究科長裁量経費により、大型研究推進支援経費を創設し、各専攻又は専攻の枠を超えた研究プロジェクト9件を採択し、今後、外部資金等の大型プロジェクト予算獲得のための支援を実施した。なお、配分額の一定額を分割で返済する仕組みを構築し、研究グループが一定の責任を担うような制度として支援を行った。 (8)各個人に申請を依頼するとともに、添削についての支援を行った。 |
| ②-2 目標とする(重要視する)客観的指標 | ②-2 |
| (1)科研費申請率100%(教員全員が新規申請と継続のいずれかに該当する。ただし、特別な理由がある教員を除く)以上を目指す。 | (1)申請率ほぼ100%を達成した。 |
| ③社会貢献(診療を含む)領域 | 自己評価 |
| ③-1 目標 | ③-1 |
| ・地域社会との連携、社会貢献について (1)(学部と協力して)高大連携事業を促進する。 (2)研究科教員による地域と連携した各種講演会や研究会の開催を支援する。 ・国際交流・協力、外国人研究者の雇用について (3)研究科教員による国際会議・セミナー開催を支援する。 (4)外国人研究者の招聘・訪問を促進する。 (5)部局間および大学間交流協定の締結を拡充する。 | (1)高校生・大学院生による研究紹介と交流の会を実施し、またSSHの運営や高校生の研究指導を行った。 (2)地域の小中学生や地域住民への啓蒙活動、企業を含めた講演会を多数回行った。 (3)エラスムス・ドゥスプログラム評価会議の開催をはじめ、頭脳循環プログラムなどの国際会議の開催を支援した。 (4)多数の招聘訪問が実施され、またその費用の一部を支援した。 (5)過去1年間に8件の交流協定が締結された。 |
| ③-2 目標とする(重要視する)客観的指標 | ③-2 |
| (1)講演会や研究会を5回程度以上開催する。 | (1)10件以上の講演会、研究会が開催された。 |
| 【総括記述欄】 | |
| ※管理・運営面についても検証した上で、今年度の達成状況を総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。 | |
| 生命医用工学専攻の設置(H27)がなされ、次の目標である新研究科設置準備の協力と支援を行う。また、当該専攻での外国人学生の確保も含めた研究科全体での定員充足を目標とする。 次年度当初に発足の異分野基礎科学研究所と協力して、新専攻の設立準備を行う。 | |